



2025.12.5

No.383

毎月5日発行 定価1部10円（組合員の購読料は組合費に含む）
1996年3月4日第三種郵便物認可

MONTHLY

れんごう

北海道

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

和田 英 浩

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

連合北海道第38回定期大会 向こう2年間の運動方針等を全体で確認

連合北海道は10月29日、札幌市内で第38回定期大会を開催した。

大会では、向こう2年間の運動方針を確認するとともに、役員改選により、引き続き会長に須間等（JP労組）、事務局長に和田英浩（自治労）が選出された。



挨拶する須間会長

はじめに執行部を代表して挨拶に立った須間会長は、まず、春闘情勢について『連合は『みんなでつろう!賃上げがあたりまえの社会』をスローガンに掲げ、2025春闘に取組み、2年続けての大幅賃上げを成し遂げた。その成果が広く社会に波及し、中小企業で働く仲間、有期・短時間・契約で働く多くの未

組織の仲間の処遇改善につながっている。しかし物価はどんどん高騰しており、実質賃金は、6月、7月と前年同月比で4%を超える大幅減少であり、昨年8月以降減少が続いており、賃金の伸びが物価上昇に全く追いついていない。連合は来月の中央委員会で『2026春闘方針』を決定し、3年続けての大幅賃上げに向け、『正念場』の闘いに臨んでいく。連合北海道も来年1月に3回目となる『北海道政労使会議』に臨むとともに、働く者の立場から物価上昇に負けない環境整備に向けた取組みを進めていく」と強調した。

さらに政治情勢についてもふれ、「衆参2度の選挙により、連合がめざした『与党を過半数割れに追い込み、今の政治をリセットする』ことは一定程度達成したが、自民党中心の政権運営が今後も続く。私たちがめざす『働くことを軸とする安心社会』に向けどのような政治となるのか注視していく必要がある。衆議院の早期解散総選挙に向けて、北海道12選挙区すべてで現職議員の推薦決定を行っているので、地域協議会のみならずととも戦いに臨んでいきたい。そして1年半を切った知事を頂点とする『統一自治体選挙』においては、連合北海道がめざす地域社会づくりに向け、北海道で働きそして暮らす道民のために『民主連絡調整会議』での議論をふまえ、野党の政治勢力の結集をめざしていく」と呼びかけた。

大会は、「2026-27年度運動方針」の他、「2025春季生活



JR総連 河上代議員



自治労 蒲池代議員



北教組 酒井代議員



基幹労連 石田代議員



電力総連 水上代議員



留萌地協 野呂特別代議員

闘争のまとめ及び2026春季生活闘争基本構想」、「連合北海道規約および規則の改正」が主な議題として進められ、すべて原案どおり承認された。また、討論では、全体で5産別1地協から運動を補強する意見が出され、今後の運動に反映させ取り組んでいくことが確認された。

最後に、新執行部を代表して挨拶に立った須間会長は「加速度的に人口減少、少子高齢化、過疎化が進む北海道で、私たち働くもの、生活者にとって安心して暮らす環境がますます困難になることが想定される。職場と地域の課題は関係している。職場で働く私たちが安心して働けなければ地域も活性化はされない。連合として果たす役割はますます大きくなるが、一丸となって取り組みを前進させる」と決意を述べた。

さまざまな課題が深刻さを増す中、道民の命と暮らしを守り、労働環境を改善するため、連合北海道は新体制のもと組織全体で思いを一つにし、力強く運動を進めていく（役員体制についてはマンスリーれんごうNo.382をご確認ください）。

マンスリーれんごうNo.382役員体制に誤りがありました。
お詫びして訂正します。

(誤) 政治・政策局長

(正) 政策・政治局長

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/10413>

地域活性化フォーラム in オホーツク

北見市の実情から現在の地方自治体財政課題について討論

連合北海道は10月25日、北見市で地域活性化フォーラムinオホーツクを開催した。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立った須間等会長は「地域では人口減少や少子高齢化社会が加速度的に進み、特に将来人口推計では北海道の少子化は全国平均を上回るペースで進んでいる。多くの自治体の機能維持に影響を与える問題で、いまこそ労働組合の原点『支え合い・助け合い』が大事であり、連合としても地域の活性化に向けて運動を展開することが求められている。今後の地域活性化に向けて、どのように関わっていくことが望ましいのか、どのように連携することが必要なのか感じ取ってほしい」と挨拶した。

次に、来賓の辻直孝北見市長は「北見市は1市3町の合併を経て、全道一広大な面積を有し、人口密度が低いという特性から広範囲にわたり社会インフラや公共施設を維持してきた一方で、人口減少の進行や物価の上昇に直面し、これまで以上に厳しい財政運営が見込まれる。将来世代に大きな負担を残さず、必要な行政サービスを維持し、持続可能なまちづくりを目指して、昨年、財政健全化計画を策定し、安定した財政基盤の確立に取り組んでいる」と現状を述べた上で、「厳しい難局を乗り越えるためには、市民や事業者、働く皆様とともに持続可能な地域経営へどのように転換していくかを考えることが、この地域の未来を切り開く一歩である」と挨拶した。

一つ目の基調講演では連合本部・神保政史事務局長より「連合の地域活性化～連合がめざす社会と地域活性化の取り組み～」と題して講演が行われ、労働団体として「働くということを通じて地域活性化につなげていくこと、加え



パネルディスカッションの様子

て、地域社会に携わる方々とのネットワークの構築を進め、地域経済の発展に寄与していく」と話された。

二つ目の基調講演では北海道新聞北見支社・水野薫記者より「北見市の財政問題の経過と今後について」と題して講演が行われた。この間の調査・取材を通して「財政再建は収支を合わせることが目的ではなく、何を残すかを市民と議論することが重要」と強調。北見の資源や人の力を生かし、「行政と住民がともに考える再生の道が問われている」と話がされた。

第二部パネルディスカッションは、モデレーターに釧路公立大学地域経済研究センター長・教授の中村研二氏、パネリストには連合北海道の須間会長、前釧路市長の蝦名大也氏、北見商工会議所専務理事の服部浩司氏の3名で実施した。モデレーターの中村教授はテーマを「自治体合併と財政問題・地方創生への展望」と設定し、パネリストへ投げかけた。須間会長は、労働組合が職場の課題にとどまらず、地域課題にも関わることが求められてるとした上で、「広域自治体となった北見市のような地域では住民の移動や交通確保が大きな課題」と強調し、「公共交通の維持や除排雪などの行政サービスが難しくなっている一方で、高齢化などで移動手段が限られる中、地域住民と行政の協力が欠かせない」と地域の生活基盤を守るために連携の必要性を訴えた。財政問題については、連合北海道が昨年11月に実施した道内自治体実態調査(135市町村回答)から「財政支援を要望する」と回答した自治体が全体の4割超となり、補助金率の引き上げや交付税の増額を求める声が多数を占めたと報告し、「人口に依存した交付税算定では、広域で人口減の北海道の実情に合わない」として制度見直しを国に求めていると説明した。



講演する連合本部神保事務局長



北海道新聞北見支社水野記者

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/10407>



2025平和行動 in 沖縄

沖縄の今と歴史の事実から決意を新たに

連合北海道は11月5日から9日までの日程で2025平和行動in沖縄を実施し、「北海道代表团」として16名を現地に派遣し平和学習に取り組んだ。本来であれば6月23日の慰霊の日を中心に連合本部主催で開催されるが、参議院議員選挙と日程が重なったことから、この時期での北海道独自行動となった。

1日目は伊江島に渡り、平和ガイドの案内による戦跡めぐりを行った。住民のおよそ半数が犠牲になったと言われる島であり、日本軍の命令により、住民は武器を持って戦い、集団自決も行われた。こうしたことから「沖縄の縮図」とも言われ、今なお残る傷跡が、当時の悲惨な状況を物語っていた。

2日目は、最初に辺野古基地を周辺の海岸から見学した。美しい海が基地で埋め立てられていく様は、なんとも複雑な気持ちであり、この基地の必要性について考えさせられるものであった。続いて、嘉手納基地、普天間基地とめぐり、市民が普通に生活しているところを、爆音を響かせ飛び交う戦闘機を目の当たりにし、この光景が、通常の光景であってはならないとの思いを新たにした。

最終日の3日目は、激しい地上戦の舞台となり、多くの民間人が犠牲になった本島南部へ移動し、摩文仁の丘や糸数アブチラガマなどの戦跡めぐりを行った。糸数アブチラガマは、元々は住民の避難壕だったが、日本軍に陣地や倉庫、南風原陸軍病院の分室として利用され、多くの人が亡くなった。ガイドに案内されガマの中を見学したが、当然明かりもなく、当時は多くのけが人と生死をさまよい苦しみの声を上げる人々がひしめき合っていた。



沖縄戦で戦没した北海道の方の慰霊碑「北霊碑」を訪れた代表团

その状況はまさに想像を絶する。ここで見たもの、感じたものを、私たちが伝えていかなければならないとあらためて感じた。また、ひめゆり平和祈念資料館や沖縄平和祈念資料館を見学し、写真パネルをはじめ、沖縄戦体験者の証言文などから沖縄戦の実相を学んだ。

今年は戦後・被爆から80年の節目の年である。今あるこの平和を次の世代に残すことができるのか、それは今を生きる私たちにかかっている。私たちの責務として戦争を語り継いでいかなければならない。連合北海道は戦争がもたらした惨劇と実相を忘れることなく、引き続き「米軍基地の整理・縮小」「日米地位協定の抜本改定」を求め平和運動を推進していく。

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/10434>



2026年度 道政に対する「要求と提言」

北海道との意見交換を実施

連合北海道は10月16日、連合北海道「2026年度道政に対する『要求と提言』」の要請書に対する意見交換会を



意見交換の様子

開催した。意見交換会には、構成組織から13名が参加し、道からは経済部や総合政策部など各部から計47名が参加した。

冒頭、道経済部の藤田栄一郎雇用労政課長は「本道においては、賃上げの動きが広まる一方、人口減少や少子高齢化の進行に加え、雇用のミスマッチがあり、様々な業種で人材不足が深刻化している。人材確保が重要な課題となっているほか、物価高の長期化などが道民の暮らしに大きな影響を与えていると認識している。道としては、企業間取引の適正化や企業の生産性の向上の促進、伴走型の経営相談を進めるとともに、女性や高齢者の労働参加の支援、人手不足が深刻な業種への労働移動の促進などといった地域の産業を支える人材確保や働き方改革の推進などに

取り組んでいる。本日の意見交換の場において、雇用対策をはじめ、道政全般にわたって忌憚のない意見をいただき、今後の道の施策を検討する上での参考とさせていただきたい」と挨拶した。

次に、連合北海道の和田英浩事務局長は「北海道庁への要請内容については、連合北海道の組合員23万人の声を吸い上げて、道内の身近な課題や、共有できる地域課題について提言させていただいている。全国自治体病院協議会の報告によれば、全国の自治体病院の86%が2024年度の決算で赤字だったという。道内においても、都市部を除けば公立病院が地域医療を支えているものの赤字経営の公立病院が多く存在している。道内の公立病院の存続をどのように図っていくのか、北海道知事のリーダーシップによりこの問題を解決していかなければならな

い」と考える。こういった視点での課題を数多く要望させていただいている。そのうちのひとつでも多く、道民や市民・町民・村民のための政策に繋がっていけるよう前向きな意見交換を行いたい」と挨拶した。

意見交換では、連合北海道の永田総合政策局長が、ラピダス社進出に伴う半導体工場の有機フッ素化合物や処理水の問題をはじめ、労働環境、人材確保、交通、住まいの確保について指摘したほか、全体で25項目と多岐にわたる地域課題について再要請し、構成組織からも関係する道政課題について指摘し意見交換を終了した。

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/10326>



北海道産品評価試食会を開催

10月30日、食・みどり・水を守る道民の会は、労働者(消費者)が、北海道の生産者が提供する安心安全で食味の高い道産品を再認識し、率先した購入・消費による地産地消の促進と北海道の一次産業の活性化を目的に「道内食材評価に向けた試食会ーおいしい。あんぜん。北海道2025～生産者の想いを道民に～」を開催した。本事業は2018年から始まり、今年で6回目を迎えた。

食・みどり・水を守る道民の会高久保会長は「試食会は北海道産の食材を使った料理を参加者の皆さんと楽しく食べて盛り上がる企画であり、北海道産の素晴らしさをぜひ再認識する会にしたい」と挨拶した。

農業団体挨拶では北海道農民連盟中原委員長が「今年は異常気象で暑く、農産物の作付けに本当に苦労している。しかし、その厳しい天候の中で試行錯誤し、おいしい農産物をたくさん消費者に届けようという思いでやってきた。今回も自信のある北海道産食材をぜひ堪能してほしい」と呼びかけた。

その後、生産者の方たちから食材の紹介とともに生産者としての思いも語られた。

乾杯の挨拶では連合北海道須間会長が「私たち消費者が食べていけるのも今年の暑い夏の中、必死に作物を作り



試食会の様子

育ててくれた農業者の皆さんのおかげだ」と感謝を述べるとともに「農業者の皆さんとともに我々働く仲間も一緒になって、この北海道の一次産業を盛り上げよう」と述べた。

試食会では、北海道農民連盟から米や野菜、乳製品などの農畜産物を提供いただき、ホテルが考案した一夜限りの特別料理を堪能した。

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/10376>



12月の主な動き

12月 3日(水)	17:30	連合北海道政治学習会／グランドメルキュール札幌大通公園
12月 4日(木)	14:30	2026春季生活闘争格差是正フォーラム／WEB
12月17日(水)	14:30	2025連合税制シンポジウム／WEB
12月18日(木)	13:30	連合第3回中央執行委員会／連合会館
12月24日(水)	10:00	第3回執行委員会／ホテルポールスター札幌
	13:30	第92回地方委員会／ホテルポールスター札幌
	15:30	第2回地協事務局長会議／ホテルポールスター札幌
12月26日(金)		連合北海道 仕事納め ※仕事始めは1月5日

イベントカレンダー

連合北海道 新年交礼会
1月6日(火)17:00～
京王プラザホテル札幌

